

SC-4. タンパとセントピート

横浜シャフルボード協会

“Tampa and St. Pete” by Lary Faris

抄訳: 薩川俊三

先攻のプレイヤーが最初から得点ディスクを置くプレーをすると、通常、ハンマーを持つ後攻のプレイヤーが有利だ。そこで、先攻のプレイヤーは先ずガードのディスクを置いて、その背後に得点ディスクを隠そうとする。この予め置くガードには、タンパとセントピートがある。

シャフルボード発祥の地フロリダの、プラデントン市から北を見ると、右にタンパ市、左にセントピーターズバーグ市（略称セントピート）がある。ガードの名称は両市の位置に由来する。

タンパは、10 エリアの頂点の自分側横に、ディスクの縁が頂点から1 インチ (2.5cm)以内になるように置いたディスクだ（図を参照）。その背後の7 エリアか8 エリアに得点ディスクを隠すことができる。

タンパを置く位置はデリケートだ。10 エリアの頂点から離れ過ぎると、対戦相手がその背後に得点する。対戦相手側コートにタンパの一部でも入ると、対戦相手は自分のタンパとして利用する。

セントピートは、10 エリアの頂点のほぼ横で、対戦相手側の、頂点とコートの端とのほぼ中間に置いたディスクだ（図を参照）。セントピートの背後に得点ディスクを隠すことができる。

セントピートを置く位置はコートの端に近過ぎないようにする。近過ぎると隠すショットが難しくなる。10 エリアの頂点に近過ぎると、対戦相手がその背後に得点する。

セントピートはタンパより多く使われる。タンパの位置がデリケートであるのに対し、セントピートは位置が目標から少しずれても、自分は利用でき、対戦相手が利用する危険が少ないからだ。

多くのプレイヤーと同様に、私はいつもセントピートを使う。しかしいくつかの状況ではタンパを使う。

第1 は、コートの端からセンターに向かってドリフトする時だ。このドリフトはタンパの背後に隠すショットを容易にするので、私はこれを利用するのが好きだ。

第2 は、8 点が必要な時だ。8 得点ディスクは、セントピートの背後よりもタンパの背後に隠す方が容易だ。

第3 は、思いどおりのプレーができていない時に、タンパに切り換える。時々切り換えが幸運をもたらす。

